

10年の会員構成変化

PDF

NF この団体の10年には、どのような変化が見られますか？

この文書から、以下のような10年間の会員構成の変化が見られます。

1. 会員総数が増加し、2014年の2,777名から2024年には3,070名となっている。
2. 高齢会員の割合が大きく増加している。90歳以上の会員数は2014年の42名から2024年には128名に約3倍増えている。一方、60歳未満の会員数は減少している。
3. 会員の平均年齢が上昇し、2014年の66歳から2024年には72.2歳となっている。
4. 物故・退会者の割合が増加し、2014年の34%から2024年には27%に上昇している。
5. 年会費収入は190万円から140万円に減少している。
6. 岩手県の人口は128万人から116万人に減少している。

全体として、会員の高齢化が進み、若年層の入会が伸び悩んでいる状況がうかがえます。一方で総会員数自体は増加していますが、年会費収入は減少しています。地域の人口減少の影響もあるものと考えられます。

NF 年齢層の構成グラフから得られるものはありますか？

はい、年齢層別の構成グラフから以下のような点が読み取れます。

1. 2024年時点で、70歳以上の高齢会員が全体の約6割を占めている。特に75-85歳層が最も多くなっている。
2. 一方、60歳未満の会員は大幅に減少している。50歳未満の会員はわずか10%程度にすぎない。
3. 2014年と比べると、80歳以上の高齢層が大きく増加している一方、60歳未満の中堅・若年層が顕著に減少している。
4. 90歳以上の超高齢者も2014年の4名から2024年には38名に増加し、長寿会員が目立つようになっている。
5. 25歳未満の入会者はほとんどいない状況で、新規加入者の確保が課題となっている。

このように、会員の高齢化がさらに進行し、若返りが遅れていることが構成比の変化から見て取れます。将来的な会員継続に向けて、若年層の入会促進が重要な課題となっていることがグラフから読み取れます。

藤井事務局の読み

2050年の岩手県：78万人／15歳未満8％／中学3年4600人・公立高校60校総定員7800名／
一高学年当り5クラス／海外留学／首都圏上京減少・・・

若年層の入会促進に頼るだけの会勢運営は、方向転換が必要になっていると判断。

PDF

NF グラフから読み取れる傾向と対策を教えてください。

このグラフから、以下の傾向と対策が考えられます。

傾向:

1. 会員の高齢化が進んでいる。2014年には65歳以上の会員が約60%だったが、2024年には75%を超えている。特に80歳以上の高齢会員が大幅に増加している。
2. 一方で、50歳以下の若年層会員が大幅に減少している。2014年では347名いた50歳以上会員が2024年には58名にまで減少している。

対策:

1. 会員の高齢化に対応するため、高齢会員向けのサポートやサービスを強化する必要がある。例えば、会合の場所のバリアフリー化、介護サービスの提供、オンライン会議の導入など。
2. 若年層の入会を促進するための取り組みが不可欠である。例えば、学生会員制度の創設、SNSを活用した広報活動の強化、若手会員が参加しやすいイベントの企画など。
3. 長期的に会員数を維持・拡大していくには、幅広い年齢層からの入会促進に努める必要がある。会の活動内容や会員サービスを見直し、様々な年代のニーズに応えられるよう改善していく必要がある。
4. 県人口の減少にも対応が求められる。広域からの会員獲得や、県外在住者への働きかけなども検討する価値がある。

総じて、会員構成の変化に機動的に対応し、サービスや活動内容を見直していくことが求められている。

Copy Retry



Subscribe to Pro and get Claude 3 Opus, our most intelligent model.

Claude can make mistakes. Please double-check responses.

Subscribe to Pro ×